



2013年08月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集

「さくら」第100号によせて

偕行会グループ 透析事業本部長・(医社)偕翔会 理事長

さいたまほのかクリニック 院長 堀川 和裕



おかげさまで「さくら」は第100号の発刊を迎えることができました。第100号を発行できることは、このリーフレットを読んで下さっている皆様の温かいご支援と、担当をしている熱意あるスタッフの継続した取り組みのおかげだと思います。

私が前回、「さくら」に寄稿させていただいたのは今年の1月でした。偕行会グループの透析医療の取り組みについて書かせていただきたいのですが、それは今でも変わることなく、引き続き課題として向き合っていかなければならないと考えております。

今回、この節目の「さくら」に文章を載せていただくにあたって、新たに私たちが課題としていく問題について述べさせていただきたいと思います。

(1) 医師体制について

現在、名古屋共立病院の診療体制はとても充実してきています。これは従来からいる医師や医療スタッフががんばってくれていることに加えて、優秀な医師が集まってきてくれていることが大きく貢献しています。

一方、各透析クリニックの医師数は十分とは言えない状態が続いており、透析をお受けになっていらっしゃる皆様にご迷惑をおかけしている点もあるかと存じます。医療は人が行うことですから、医師を始め透析室のスタッフの数を充足させ、質を高めていくことは是非とも成しとげなければなりません。